

- Takashi Nagasawa, Tsutomu Chiba:  
Critical Role of CXCL12-CXCR4  
Interaction in the Pathophysiology  
of Inflammatory Bowel Disease:  
Digestive Disease Week and the 107th  
Annual Meeting of the American  
Gastroenterological Association  
Institute, 2006.5.20.
7. Hiroshi Nakase, Hiroyuki Tamaki,  
Minoru Matsuura, Satoko Inoue,  
Mitsunori Uza, Satoru Ueno, Hiroshi  
Kitamura, Katsuhiko Kasahara,  
Tsutomu Chiba: Maintenance Therapy  
with Tacrolimus in Patients with  
Crohn's Disease Refractory to  
Azathiopurine: 2 Years Trial:  
Digestive Disease Week and the 107th  
Annual Meeting of the American  
Gastroenterological Association  
Institute, 2006.5.20.
8. Miyamoto S, Nitta T, Aoi T, Nishio A,  
Chiba T: A New Endoscopic Attachment  
for the Submucosal Dissection:  
Digestive Disease Week and the 107th  
Annual Meeting of the American  
Gastroenterological Association  
Institute, 2006.5.23.
9. 宮本心一、青井貴之、森田周子、山田 敦、新田  
孝幸、西尾彰功、千葉 勉: フード型双極ナイフ  
を用いた粘膜下層剥離術: 第6回内視鏡的粘膜切  
除術研究会, 2006.7.16.
10. 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝幸、  
西尾彰功、千葉 勉: 表在食道癌に対するフード  
型双極ナイフの有用性: 第33回京滋食道疾患懇  
話会, 2006.7.22.
11. 三上 栄、仲瀬裕志、笠原勝宏、宇座徳光、  
上野 哲、井上聡子、北村 浩、松浦 稔、千葉  
勉: 炎症性腸疾患の病態におけるCXCL12/  
CXCR4系の役割: 第43回日本消化器免  
疫学会総会, 2006.8.3.
12. H.Fukui, A.Sekikawa,  
T.Fujimori, T.Chiba: Expression of  
REG IV gene in ulcerative colitis  
and colitic cancer: The 16th  
International Symposium on  
Regulatory Peptides(REGPEP'06),  
2006.8.30.
13. Mikami S, Nakase H, Nagasawa T,  
Chiba T: Critical Role of CXCL12-  
CXCR4 Interaction in the  
Pathophysiology of Inflammatory  
Bowel Disease (poster session):  
Japan-Korea IBD Symposium,  
2006.9.23.
14. 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝  
幸、西尾彰功、千葉 勉: フード型双極ナイ  
フ(B-Cap)を用いた粘膜下層剥離術: 第77回  
消化器内視鏡学会地方会, 2006.9.23.
15. 井上聡子、仲瀬裕志、千葉 勉:  
Bifidobacterium longum(BB-536)の潰  
瘍性大腸炎に対する治療効果と腸管上皮バ  
リア機能に対する影響: 第48回日本消化器病  
学会大会・パネルディスカッション,  
2006.10.12.
16. 仲瀬裕志、松浦 稔、千葉 勉: 難治性  
クローン病に対する Tacrolimus を用いた  
緩解維持効果の検討: 第48回日本消化器病  
学会大会・ワークショップ, 2006.10.12.
17. 宇座徳光、仲瀬裕志、千葉 勉: SP-  
PSOX/CXCL16 制御による炎症性腸疾患に対  
する新規治療開発: 第48回日本消化器病学  
会大会・シンポジウム, 2006.10.13.
18. 宮本心一、青井貴史、山田敦、新田孝幸、  
西尾彰功、千葉 勉: 粘膜下層剥離術におけ  
るフード型双極ナイフ(B-Cap)の有用性: 第  
48回日本消化器病学会大会, 2006.10.13.

19. 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝幸、  
西尾彰功、千葉 勉：フード型双極ナイフ(B-Cap)  
を用いた粘膜下層剥離術：第5回消化器病フォー  
ラム，2006.12.2.
20. 宮本心一、青井貴之、森田周子、新田孝幸、  
西尾彰功、千葉 勉：フード型双極ナイフ(B-Cap)  
を用いた粘膜下層剥離術：第15回クリニカルビ  
デオフォーラム，2007.2.17.

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

Hood with excising function and endoscope.

Publication No. WO/2006/064868

International Application

No. PCT/JP2005/023033

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

分担研究報告

食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発に関する研究  
（粘膜下層浸潤食道癌に対する内視鏡的粘膜切除（EMR）併用化学放射線療法の開発に関する研究）

分担研究者 飯石 浩康 大阪府立成人病センター 診療局長兼消化器内科部長

研究要旨

粘膜下層浸潤食道癌20例にEMR併用化学放射線療法を行い、予後は比較的良好で重篤な副作用を認めなかった。

A. 研究目的

粘膜下層浸潤食道癌に対するEMR併用化学放射線療法の有効性を検討する。

B. 研究方法

- ① EMR ; 2-Channel法もしくは粘膜切開剥離法を用いて食道癌をできる限り切除する。
- ② 化学放射線療法 ; 化学放射線療法はEMR後1週間程度おいて開始する。放射線療法は縦隔を中心に、2Gy/日で合計40Gy照射する。これと併行して5FU、CDDPを投与する。

C. 研究結果

粘膜下層浸潤食道癌20例に本治療を施行し、中央値で18ヶ月経過観察した。予後は1例が併存する下咽頭癌もしくは食道癌からの肺転移で死亡し、1例が他病死した。治療による毒性はEMR後バルーン拡張を要する狭窄を4例に認めた。CRT中にgrade 3の非血液毒性を4例、白血球減少を1例に認めたが、重篤なものはみられなかった。

D. 考察

EMR併用化学放射線療法の予後は外科切除後の予後と比較しても劣らず、副作用も軽微であった。

E. 結論

粘膜下層浸潤食道癌に対するEMR併用化学放射線療法は外科切除と同等以上の効果を有する可能性があり、多数例での検討が望まれる。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Uedo N, Iishi H., et al. Novel Autofluorescence videoendoscopy imaging system for diagnosis of cancers in the digestive tract. Dig. Endosc., 18(suppl. 1)S131-136, 2006.
- 2) Uedo N., Iishi H., et al. Longterm outcome after endoscopic mucosal resection for early gastric cancer. Gastric Cancer, 9: 88-92, 2006
- 3) Uedo N., Iishi H., et al. A new method of gastric intestinal metaplasia: narrow-band imaging with magnifying endoscopy Endoscopy, 38: 819-824, 2006.

2. 学会発表

- 1) 石原立、飯石浩康. 高齢者表在食道癌に対するEMRの有用性. 第71回消化器内視鏡学会総

会. 2006. 5 (東京) [パネル]

- 2) 石原立、飯石浩康. 食道癌に対する粘膜下深層剥離の有用性. - sm癌の切除を見据えて- 第60回日本食道学会2006. 7. 1 (東京) [ビデオシンポ]

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）

分担研究報告書

早期消化管がんに対する内視鏡的治療の安全性と有効性の評価に関する研究

分担研究者 金子 和弘 昭和大学病院 助手

研究要旨 食道扁平上皮がんの前がん病変を明らかにする目的で、分子生物学的手法を用いて検討した。

A. 研究目的

内視鏡下にルゴール染色を行い、ルゴール不染部より採取された検体を用いて、食道扁平上皮がんの前がん病変を分子生物学的手法により検討することを目的とした。

B. 研究方法

食道扁平上皮がん、dysplasia、ルゴール不染帯(非腫瘍)の検体を対象に p53 遺伝子変異の解析を行った。

(倫理面への配慮)

選択基準に適合した患者に対して、説明書を用い口頭で十分に試験内容を説明し、文書をもって同意を得た後に試験を行った。

C. 研究結果

p53 遺伝子変異は、食道扁平上皮がんの 56%に、dysplasia の 33%に認められた。また、病理組織学的に非腫瘍と診断されたルゴール不染帯 137 検体中 4%に p53 遺伝子変異が認められた。p53 遺伝子変異の中には固形がんの特徴的な所見である hotspot mutation が 25-30%程度存在する。hotspot mutation は dysplasia の 40%、ルゴール不染帯の 20%に認められた。また、同一症例の正常組織からは p53 遺伝子変異はみられなかった。

D. 考察

病理組織学的に非腫瘍と診断されたルゴール不染帯の中に p53 遺伝子変異がみられ、さらに hotspot mutation が 20%にみられた。病理組織学的に腫瘍と診断される前の

段階で遺伝子変異が発生していることが示唆された。

E. 結論

病理組織学的に非腫瘍と診断されたルゴール不染帯の中には、食道扁平上皮がんの前がん病変が含まれている可能性が示唆された。内視鏡下に行う食道表在がんの発見・治療に貢献できる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Study of p53 gene alteration as a biomarker to evaluate the malignant risk of Lugol-unstained lesion with non-dysplasia in the oesophagus. Brit J Cancer, 96:492-498, 2007

2. 学会発表

なし

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発に関する研究

分担研究者 澤木 明 愛知県がんセンター中央病院 消化器内科医長

研究要旨

早期食道癌(m3sm1)に対する内視鏡的治療の成績を後ろ向きに検討し、内視鏡治療は低侵襲かつ効果的な治療法であると考えた。

A. 研究目的

早期食道癌(m3sm1)に対する内視鏡的治療の成績をRetrospectiveに検討を行い、内視鏡治療の有効性を明らかにする。

B. 研究方法

当院で診断・治療を行った食道m3sm1癌で、内視鏡治療を行った28例(男:女=26: 2)と、外科治療を行った19例(男:女=16: 3)を比較検討した。

(倫理面への配慮)

個人情報取り扱いに注意した。

C. 研究結果

内視鏡治療群の深達度はm3癌20例、sm1癌8例であった。3例に局所再発、2例にリンパ節再発を認めた。手術治療群はm3癌12例、sm1癌7例であった。7例にリンパ節転移を伴っており、どちらの群も後治療をおこなった。

D. 考察

手術群は内視鏡治療群と比較してsm1癌の割合が高く、より深く浸潤している傾向があると考えられた。内視鏡治療群では原病死は認めなかったが、手術群では3例の原病死を認めた。この成績は内視鏡治療群の有効性を示している可能性があるものの、内視

鏡治療群は病期の低い対象を治療した可能性がある。

E. 結論

m3sm1食道癌に対する内視鏡治療は低侵襲でありかつ効果的である可能性が示唆された。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

食道m3sm1癌に対するEMR適応拡大の検討 河合宏紀、澤木明らDDW-Japan2004

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発に関する研究

分担研究者 小山 恒男 厚生連佐久総合病院 胃腸科部長

研究要旨

食道表在癌に対して内視鏡下に一括切除を施行する技術を開発した事で、正確な病理学的検索が可能となり、術後の追加治療の要否をより正確に判定する事ができるようになった。また、術後の局所再発は皆無となり、患者の予後改善に貢献した。

A. 研究目的

食道表在癌に対するESD(Endoscopic Submucosal Dissection)の有用性を検討する。

B. 研究方法

2000年1月以降にESDを施行した食道表在癌206例を対象とし、一括切除率、偶発症、予後を検討した。

C. 研究結果

206病変のESDを施行し、一括完全切除率94%で、穿孔0%、輸血率0%と重篤な偶発症はなかった。局所再発率は0%、深達度m1, m2群138例、sm1群14例は全例無再発、m3群26例中ly1であった1例に多発リンパ節転移再発を認めchemo radio therapyを追加した。観察期間3-72月で現病死を認めていない。

D. 考察

食道壁は胃壁より薄く、心拍動の影響も大きいため、ESD技術は胃ESDより難しい。しかし、適切なデバイスを用いることにより、安全なESDを施行する事ができた。また、ESD切除標本はEMR分割切除標本に比し、良好な標本を得る事ができ、詳細な病理組織学的検索が可能であった。

E. 結論

ESDは食道表在癌に対する、安全で有用な内視鏡治療法である。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Syuko Morita, Tsuneo Oyama, et al., Superficial esophageal cancer type 0-IIa+ IIc (m2): A case atlas. Esophagus, 3:197-200, 2006
- 2) 小山恒男、他、ESDのためのこだわりの術前診断、消化器内視鏡、18(2):187-194、2006
- 3) 小山恒男、他、ESD修得前に必要とされる基本テクニック、①ESDに求められる術前診断、臨床消化器内科、21(9):1227-1233、2006
- 4) 小山恒男、他、Barrett食道およびBarrett食道癌の拡大観察、臨床消化器内科、21(4):407-412、2006
- 5) 小山恒男、他、HEMOSTASIS WITH HOOK KNIFE DURING ENDOSCOPIC SUBMUCOSAL DISSECTION、Digestive Endoscopy、18(1): 2006
- 6) 小山恒男、他、Barrett食道癌のESD、消化器の臨床、9(1):66-72、2006
- 7) 小山恒男、他、早期癌に対する内視鏡治療 2

- ・食道④ESD、胃と腸、41(4):491-497、2006
  - 8) 小山恒男、他、これからの食道早期癌拾い上げ診断、胃と腸、41(2):145-150、2006
  - 9) 小山恒男、他、ESD, Hookナイフで過不足のない一括切除を、消化器内視鏡、18(7):1097-1102、2006
  - 10) 田中雅樹、小山恒男、他、咽頭・喉頭・食道の観察、消化器内視鏡、18(5):626-631、2006
  - 11) 小山恒男、他、Barrett食道癌の治療 (1)内視鏡下治療の適応と方法、臨床消化器内科、22(1):91-97、2007
  - 11) ESD時代の内視鏡診断学、第92回日本消化器内視鏡学会関東地方イブニングセミナー、2006
  - 12) Barrett腺癌の早期診断、横浜消化器内視鏡医学会第99回集談会、2006
  - 13) ESD with hook knife, がん学術セミナー、2006
  - 14) 内視鏡教育法ー診断からESDまでー、第10回杉並内視鏡研修研究会、2006
  - 15) 食道・胃表在癌の内視鏡診断とESD、第2回鹿児島消化器先端医療セミナー、2006
  - 16) 食道癌・胃癌のESDー偶発症予防のコツ、内視鏡学会東海セミナー、2006
  - 17) 早期食道癌・早期胃癌内視鏡治療、第9回近畿消化器内視鏡ガイドライン講習会、2006
2. 学会発表
- 1) Live demo: a case of esophageal cancer. 6th ESD live demonstration seminar, 2006
  - 2) Endoscopic Submucosal Dissection with Hook Knife. Korea Gastrointestinal Endoscopy Society, 2006
  - 3) ESD for Superficial Esophago-Gastric Cancers. International Workshops on Diagnosis and Therapy of Gastrointestinal Cancer, 2006
  - 4) ESD with hook knife for superficial esophageal cancer, The 14th UEGW in Berlin, 2006
  - 5) Endo Update2006. ESD with hook knife, Augsburg, Germany, 2006
  - 6) 食道表在癌の診療と治療、内視鏡学会東海セミナー、2006
  - 7) 正確な術前診断による内視鏡的粘膜下層剥離術、第15回日本消化器内視鏡学会北陸セミナー、2006
  - 8) ESDの各デバイスの特徴と使い方の実際、第5回国際消化器内視鏡セミナー、2006
  - 9) 食道表在癌に対する拡大内視鏡診断とESD、第7回茨城県食道疾患懇話会、2006
  - 10) ESD with hook knife. 第4回TV-Takeda Alimentary Conference、2006
- H. 知的財産権の出願・登録状況
- 1. 特許取得  
なし
  - 2. 実用新案登録  
なし
  - 3. その他



食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発に関する研究

分担研究者 小林 望 栃木県立がんセンター 画像診断部医員

研究要旨

食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法として、臨床病期I期食道扁平上皮癌に対する、EMRと化学放射線療法を組み合わせた非外科的治療に関する多施設共同前向き試験を計画し、平成18年12月より症例登録を開始した。今後3年間で82名の「pSM1-2かつ断端陰性患者」を集積する予定であり、順調な登録が期待される。

A. 研究目的

粘膜下層（SM1-2）への浸潤が疑われる臨床病期I期（T1N0M0）食道扁平上皮癌に対する、EMRと化学放射線療法を組み合わせた非外科的治療の有効性と安全性を評価する。

B. 研究方法

粘膜下層への浸潤（SM1-2）が疑われる臨床病期I期（T1N0M0）食道扁平上皮癌を対象にEMRを施行し、病理学的深達度に基づいて追加治療法を選択する。すなわち、pM3で脈管侵襲陰性であれば経過観察、pM3で脈管侵襲陽性あるいはpSM1-2であれば予防的化学放射線療法、切除断端陽性あるいは切除標本の評価が不十分な場合は根治的化学放射線療法を施行する。その後は、再発・転移等が確認されるまで、無治療で3年間の経過観察を行う。primary endpointはpSM1-2かつ断端陰性患者における3年生存割合とする。

なお、予防的化学放射線療法としては、化学療法（5-FU 700mg/m<sup>2</sup>: day1-4, 29-32, CDDP 70mg/m<sup>2</sup>: day1, 29）に放射線照射41.4Gyを併用し、根治的化学放射線療法では放射線照射を50.4Gyとする。

倫理面への配慮としては、有害事象のリスクや不

利益を最小化するために、患者の選択基準や治療計画が慎重に検討されている。また、JCOG臨床試験では年2回のモニタリングが義務づけられており、有害事象が予想された範囲内かどうかをデータセンターと効果・安全評価委員会が監査する。また、重篤な有害事象、予期されない有害事象が生じた場合は、報告する体制がとられている。

本試験に関係するすべての研究者は、ヘルシンキ宣言および臨床研究に関する倫理指針に従って本試験を実施する。

C. 研究結果

平成18年12月21日より患者登録が開始され、3年間で82例の登録が予定されている。当施設では臨床研究審査委員会での事前審査が問題なく終了し、平成18年3月中の本審査を予定している。

D. 考察

粘膜下層への浸潤（SM1-2）が疑われる臨床病期I期食道扁平上皮癌に対しては、従来より外科切除が標準治療とされてきたが、手術直接死亡

1.8%, 在院死5.4%と侵襲が大きいことが問題であった。リンパ節転移の頻度は2~3割程度と考えられている集団であり、より低侵襲な治療法の開発が望まれている。

一方、同一母集団に対する化学放射線療法は、比較試験ではないものの外科切除と同等の成績が報告されており、低侵襲な治療法として実臨床では普及している。しかし、局所の遺残が12.5%認められ、また再発・新病変出現が41%認められており、可能であれば追加内視鏡治療（EMR）が施行されているが、放射性照射後の内視鏡治療は困難なことが多く、外科切除が必要となることも多い。

我々の研究では、外科切除に比べて侵襲の低い化学放射線療法を治療の中心とし、その欠点である高い局所再発率を抑えるために治療前にEMRを行うこととした。この治療法のもう一つの利点は、EMRによって得られた標本から化学放射線治療前に病理診断を確認することができる点で、この結果により病気の進行度に応じた治療を選択することができる。

本研究を完遂することによって、臨床病期I期食道扁平上皮癌に対する低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発につながる可能性があり、そのためにも順調な症例集積が望まれる。

## E. 結論

粘膜下層（SM1-2）への浸潤が疑われる臨床病期I期（T1N0M0）食道扁平上皮癌に対する、EMRと化学放射線療法を組み合わせた非外科的治療の有効性と安全性を評価するための多施設共同前向き試験を計画し、平成18年12月より症例登録を開始した。今後の順調な症例集積が期待される。

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

1) 小林 望、他：症状から見た食道疾患。医事新報  
291：49-52, 2006

### 2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況  
特許になし

食道がんに対する内視鏡的治療を応用した低侵襲でかつ根治性の高い治療法の開発に関する研究

分担研究者 吉田 元樹 熊本地域医療センター 内科医長

研究要旨

粘膜下層浸潤臨床病期 I 期 (T1N0M0) 食道扁平上皮癌に対する内視鏡的粘膜切除術 (EMR) と化学放射線併用の非外科的治療の有効性と安全性を評価する事で、これまで標準的治療方法と考えられている外科的切除術に匹敵する成績の可能性を探索する。

A. 研究目的

粘膜下層浸潤臨床病期 I 期 (T1N0M0) 食道扁平上皮癌に対する内視鏡的粘膜切除術 (EMR) と化学放射線併用の非外科的治療の有効性と安全性を評価する。

B. 研究方法

粘膜下層浸潤臨床病期 I 期 (T1N0M0) 食道扁平上皮癌に対する内視鏡的粘膜切除術 (EMR) と化学放射線併用の非外科的治療の有効性に関する第 II 相臨床試験を行う。

(倫理面への配慮)

班会議において検討を重ね、プロトコル審査を経て、十分な検討を重ねられたプロトコルであるが、当施設における IRB においても、審査を受けた上で患者さんに適切なインフォームド・コンセントを行い、試験に参加して頂く予定。

C. 研究結果

平成18年度当施設 IRB を通過しているが、放射線治療委託施設である熊本大学医学部付属病院において、IRB 申請中であり、本研究への症例登録を準備中である。

D. 考察

粘膜下層浸潤臨床病期 I 期 (T1N0M0) 食道扁平上皮癌に対し、化学放射線療法を行った JCOG9708 において、標準的治療方法と考えられている外科的切除術に匹敵する成績 (CR 87.5%, 2年生存率 93.1%) が示された。一方で、12.5% の遺残全例に対して EMR や外科的切除が行われ、CR 後の 40% に再発・新病変が出現し、その内の 7割は EMR や外科的切除術で根治可能であったと報告されており、化学放射線療法の局所コントロールに対する不十分さが指摘されており、この臨床試験では EMR を事前に行う事で、化学放射線療法後の遺残や局所再発率を低下させる事が期待されている。

E. 結論

本研究は症例登録中であり、結論はでておらず、今後の結果に期待している。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 経皮内視鏡的胃瘻造設術113-130、山下啓史、廣中秀一、矢野友規、他、治療内視鏡実践ハンドブック、医学書院、2006
- 2) 消化器内視鏡ステント留置術176-193、多久

佳成、山下啓史、吉田元樹、他、治療内視鏡実践  
ハンドブック、医学書院、2006

2. 学会発表

特記事項なし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特記事項なし。

2. 実用新案登録

特記事項なし。

3. その他

特記事項なし。

## 研究成果の刊行に関する一覧表

## 書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
武藤 学		武藤 学 土井 俊彦 佐野 寧	治療内視鏡 実践ハンド ブック	医学書院	東京	2006	
田辺 聡, 他	高齢者・基礎疾患 をもつ患者への 対応	斉藤大三 田尻久雄	ESDの周術 的管理	日本メディカル センター	東京	2007	59-63
飯石浩康他	早期胃癌内視鏡 治療ガイドライ ン 1. EMR	日本消化器内 視鏡学会	消化器内視 鏡ガイドラ イン	医学書院	東京	2006	257-269
上堂文也、飯 石浩康他。	AFIによる食道表 在癌の診断	田尻久雄	特殊光によ る内視鏡ア トラス	日本メディ カルセンタ ー	東京	2006	62-69
上堂文也、飯 石浩康他。	AFI、NBIによる 中下咽頭・食道 表在癌の内視鏡 像	丹羽寛文	内視鏡診断 のプロセス と疾患別内 視鏡像	日本メディ カルセンタ ー	東京	2006	320-323
山下啓史、他	経皮内視鏡的胃 瘻造設術	武藤 学 土井 俊彦 佐野 寧	治療内視鏡 実践ハンド ブック	医学書院	東京	2006	113-130
多久佳成、吉 田元樹、他、	消化器内視鏡ス テント留置術	武藤 学 土井 俊彦 佐野 寧	治療内視鏡 実践ハンド ブック	医学書院	東京	2006	176-193

## 雑誌：(外国語)

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Tsunehiro Oyama, Manabu Muto, et al.	Susceptibility to inhalation toxicity of acetaldehyde in Aldh2 knockout mice.	Frontiers in Bioscience	12	1927-1934	2007
Dal Ho Kim, Manabu Muto, et al.	Array-based comparative genomic hybridization of circulating esophageal tumor cells	Oncology reports	16	1053-1059	2006
Manabu Muto, et al.	Endoscopic Diagnosis of Intraepithelial Squamous Neoplasia in Head and Neck and Esophageal Mucosal Sites. (Endoscopic Diagnosis of Hypopharyngeal, Esophageal and Gastric Neoplasm)	Digestive Endoscopy	18 (Suppl. 1)	S2-S5	
Akira Yokoyama, Manabu Muto, et al	Esophageal Squamous Cell Carcinoma and Aldehyde Dehydrogenase-2 Genotypes in Japanese Females.	Alcoholism Clinical & Experimental Research	30(3)	491-500	2006
M. Saeki, M. Muto, et al.	Haplotype Structures of the UGT1A Gene Complex in a Japanese Population.	Pharmacogenomics Journal	6	63-75	2006

Akio Ashida, <u>Manabu Muto</u> , et al.	Expression profiling of esophageal squamous cell carcinoma patients treated with definitive chemoradiotherapy: Clinical implications	Int J Oncol. 28(6): 1345-52			2006
<u>Keiji Nihei</u> , et al.	High dose proton beam therapy (PBT) for stage I non-small cell lung cancer (NSCLC).	Int J Radiat Oncol Biol Phys	65(1)	107-111	2006
Toyoda M, <u>Tamura T</u> , et al.	Impact of Helicobacter pylori eradication therapy on histologic change in the distal esophagus.	Helicobacter.	11	217-23	2006
Komoto C, <u>Tamura T</u> , et al.	MDR1 haplotype frequencies in Japanese and Caucasian, and in Japanese patients with colorectal cancer and esophageal cancer.	Drug Metab Pharmacokinet.	21	126-32.	2006
Kitamura T, <u>Tanabe S</u> , et c.	Argon plasma coagulation for early gastric cancer: technique and outcome.	Gastrointestinal Endoscopy	63(1)	48-54	2006
Higuchi K, <u>Tanabe S</u> , etc	Expansion of the indications for endoscopic mucosal resection in patients with superficial esophageal carcinoma.	Endoscopy	39	36-40	2007
Sekine I, <u>Ito Y</u> , et al.	Retrospective analysis of steroid therapy for radiation-induced lung injury in lung cancer patients.	Radiother Oncol	80	93-97	2006
<u>Ito Y</u> , et al.:	Evaluation of Acute Intestinal Toxicity in Relation to the Volume of Irradiated Small Bowel in Patients Treated with Concurrent Weekly Gemcitabine and Radiotherapy for Locally Advanced Pancreatic Cancer.	Anticancer Res	26	3755-3760	2006
Uza N, <u>Chiba T</u> , et al.	Solitary rectal ulcer syndrome associated with ulcerative colitis.	Gastrointest Endosc	63(2)	355-356	2006
Aoi T, <u>Chiba T</u> , et al.	Risk of subsequent development of gastric cancer in patients with previous gastric epithelial neoplasia.	Gut	55(4)	588-589	2006
Asada M, <u>Chiba T</u> , et al.	Transpapillary biliary biopsy for early stage cholangiocarcinoma of the distal common bile duct.	Gastrointest Endosc	64(1)	125-126	2006

Fukui T, Chiba T, et al.	Education and imaging. Gastrointestinal: Epidermal metaplasia of the esophagus.	J Gastroenterol Hepatol	21(10)	1627	2006
Uza N, Chiba T, et al.	Cecal cancer associated with long-standing Crohn's disease.	Lancet	368(9549)	1842	2006
Uedo N, Iishi H	Novel Autofluorescence videoendoscopy imaging system for diagnosis of cancers in the digestive tract	Dig Endosc	18	131-136	2006
Uedo N, Iishi H	Longterm outcome after endoscopic mucosal resection for early gastric cancer.	Gastric Cancer	9	88-92	2006
Uedo N, Iishi H	A new method of gastric intestinal metaplasia: narrow-band imaging with magnifying endoscopy	Endoscopy	38	819-824	2006
K. Kaneko, et al.	Study of p53 gene alteration as a biomarker to evaluate the malignant risk of Lugol-unstained lesion with non-dysplasia in the oesophagus.	Brit J cancer,	96	492-498	2007
Tajika M, Sawaki A, et al.	Short-term development of esophageal pyogenic granuloma observed on endoscopy	Gastrointest Endosc.	64(2)	269-70	2006

雑誌：（日本語）

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
工藤 豊樹、武藤 学、他	特集 ここが知りたい他科知識、悪性腫瘍について知っておきたいこと 早期食道癌の内視鏡所見と治療法は？	JOHNS	23(3) :	479-484	2007
江副 康正、武藤 学	狭窄対策としてのバルーン拡張術	ESD(endoscopic submucosal dissection)の周術期管理		176-183	2007
三梨 桂子、武藤 学、他	食道粘膜下層浸潤癌に対する内視鏡的粘膜切除術 (EMR) と化学放射線療法 (CRT) の併用治療の試み	消化器科	43(5) :	437-444	2006
浅田 由樹、武藤 学、他	食道病変：色素内視鏡による鑑別診断 —NBI との対比および併用の有用性—	消化器内視鏡	18(12) :	1842-1848	2006
三梨 桂子、武藤 学、他	治療成績からみた食道 m3・sm 癌の治療方針、化学放射線療法 (CRT) の治療成績	胃と腸	41(10) :	1467-1474	2006
三梨 桂子、武藤 学、他	咽頭領域癌の診療 一癌の病態、内視鏡治療、CRT—	消化器内視鏡	18(9) :	1380-1388	2006
武藤 学、他	各論 1. 早期癌に対する内視鏡治療、1) 中・下咽頭				2006



武藤 学	内視鏡の新しい展開 ー照明光の特性と内視鏡、NBI(Narrow Band Imaging) (2) 咽頭・食道の癌とNBI	臨床消化器内科	21(1):	39-46	2006
二瓶 圭二	Target Volume Delineation のコツとピットフォール 2次元治療計画から3次元治療計画へ 5. 食道癌	日本放射線腫瘍学会 NEWSLETTER	4通巻82号	29-33	2006
二瓶 圭二	臨床放射線別冊 前立腺癌放射線治療のすべてー局所限局前立腺癌を中心にー 術後PSA再発に対する救済放射線治療の適応と考え方	臨床放射線別冊	臨床放射線別冊	317-327	2006
二瓶 圭二	医学のあゆみ別冊 消化器疾患 state of arts I. 消化管(食道・胃・腸) 化学放射線療法における放射線治療の動向ー食道癌を例にあげて	医学のあゆみ別冊	医学のあゆみ別冊	345-348	2006
二瓶 圭二、他	食道癌に対する放射線治療	臨床消化器内科	21(3)	291-297	2006
小野裕之、他	早期胃癌に対するESD切除成績と切除困難例の特徴	胃と腸	41(1)	37-44	2006
小野裕之	早期胃癌に対するESDと腹腔鏡下手術の接点	胃と腸	41(11)	1535-1537	2006
田辺 聡、他	早期胃癌に対するESDによる偶発症の現状とその対策 全身管理、循環動態も含めて	胃と腸	41(1)	67-74	2006
樋口勝彦、田辺 聡、他	上部消化管内視鏡治療-どこまでできるか?-	治療	88(1)	89-94	2006
西崎 朗、ほか	Barrett食道およびBarrett食道癌の内視鏡診断	臨床消化器内科	22(1)	43-49	2007
門馬久美子	これからの食道早期癌拾い上げ診断 ーNBIの立場からー	胃と腸	41	151-164	2006
門馬久美子	食道 2チャンネル法	胃と腸	41	466-473	2006
門馬久美子	食道表在癌深達度診断(通常観察)	消化器内視鏡	18	674-679	2006
門馬久美子	ESD時代の2チャンネル法-早期食道癌に対する治療:2チャンネル法でここまで行ける-	消化器内視鏡	18	1081-1088	2006
門馬久美子	早期の中・下咽頭癌の内視鏡診断と治療-早期病変を中心に-	消化器内視鏡	18	1396-1405	2006
門馬久美子	治療成績からみた食道m3・sm1癌の治療方針 EMR+αの治療成績:m3・sm1癌を中心に	胃と腸	41	1447-1458	2006
門馬久美子	食道微小癌の内視鏡診断- NBI併用観察-	消化器の臨床	9	543-548	2006

門馬久美子	食道悪性疾患	臨床外科	61	1427-1434	2006
門馬久美子 藤原純子	胸部食道癌治療としての内視鏡 敵粘膜切除術 (EMR)	外科治療	95	246-253	2006
門馬久美子 藤原純子	内視鏡的食道粘膜切除術	消化器外科NURSING	12	64-67	2007
伊藤芳紀.	局所進行膵癌に対する化学放射 線療法.	臨床放射線	51	343-352	2006
伊藤芳紀、他	直腸癌補助放射線療法-日本で 標準治療となり得るか.	外科治療	95	43-51	2006
伊藤芳紀、他	直腸癌に対する化学放射線療法	臨床放射線	51	1727-1736	2006
竹内洋司、飯 石浩康他。	陥凹型小胃癌の診断	胃と腸	41	804-810	2006
竹内洋司、飯 石浩康他。	狭帯域フィルター併用拡大内視 鏡所見からみた胃分化型SM1癌 の診断	胃と腸	42	111-120	2007
小林 望	症状から見た食道疾患	日本医事新報	291	49-52	2006